

4, 1) 今回ご出産された施設まで自宅（実家）からどれくらいの時間がかかりますか？

- () 15分以内
() 30分以内
() 1時間以内
() それ以上

2) それは遠いと思われますか、近いと思われますか？

- () 近い () 遠い

5, 1) 今回、ご出産された施設にお支払いになった（お支払い予定の）分娩費用をお教えてください（およその金額でかまいません）。

万円

2) それは高いと思われますか、安いと思われますか？

- () 高い () 妥当 () 安い

6, 今回ご出産された施設に満足しておられますか？

- () 満足している → ご満足な点を順番に3つ以内でお選びください。
() 不満である → (ご不満な点)を順番に3つ以内でお選びください。

1番

2番

3番

- ① 料理やお部屋などのアメニティが良い（悪い）
- ② 通院に便利である（通院しにくい、時間がかかる）
- ③ 診察の待ち時間が短い（長い）
- ④ 費用が安い（高い）
- ⑤ 自然なお産を選べた（選べなかった）
- ⑥ ご主人の立ち会いができた（できなかった）
- ⑦ 医師が信頼できる（信頼できない）
- ⑧ 担当医が一定している（一定していない）
- ⑨ 信頼できる助産（看護）スタッフがいる（いない）
- ⑩ 病院（看護）スタッフの対応が良い（悪い）
- ⑪ 急変時に総合病院や大学病院に対応できる（対応できない）
- ⑫ そのほか→ 具体的に ()

7、今回のご出産が2回目以上の方におたずねいたします。

今回ご出産された病院と、上のお子さまをご出産された施設とは同じでしょうか？

() 同じである

() 違う → 理由を順番に3つ以内でお選びください

1番

2番

3番

- ① 前のところは料理やお部屋などのアメニティが悪かった
- ② 前のところは通院しにくい、時間がかかった
- ③ 前のところは診察の待ち時間が長かった
- ④ 前のところは費用が高かった
- ⑤ 前のところは自然なお産を選べなかった
- ⑥ 前のところはご主人の立ち会いができなかった
- ⑦ 前のところは医師が信頼できなかった
- ⑧ 前のところは担当医がどんどんかわった
- ⑨ 前のところは助産師（看護）スタッフが信頼できなかった
- ⑩ 前のところは急変時に麻酔科医や小児科医が対応できない
- ⑪ 前のところではご自分の状態に対応できないといわれた
- ⑫ 前のところは他のひとの評判が悪かった
- ⑬ 前のところは病院（看護）スタッフの対応が悪かった
- ⑭ 前のところがお産の取り扱いをやめてしまった
- ⑮ 転勤や引っ越し、里帰り
- ⑯ そのほか→具体的に ()

8、現在、出産を取り扱う施設の減少や医師・助産師の不足など、産科医療における問題が取りざたされています。これらに関して今回のご自身の妊娠ご出産を通してお困りになったことがありましたか？

() なかった

() あった → 具体的にご記入ください

()

9、これからのよりよい産科医療のあり方について、ご意見がございましたらご自由にご記入下さい。

平成 20 年 9 月吉日

調査研究ご協力をお願い
—妊娠出産に関する意識調査—

産婦人科医師が減少していることは、報道等でご存知の方も多いと思います。産婦人科医師不足に伴い、全国的に出産を取り扱わない病院が増加しています。そのためご自宅、ご実家の近くで出産ができないという状況の方もいらっしゃいます。これに対し医療サービスの質を低下させることなく、限られた医療資源やマンパワーを有効に使うにはどのようにしたらよいのか、いくつかの対策が検討されています。また、近年安全性だけでなく、より快適な妊娠、出産が求められています。そこで今回、みなさまが妊娠や出産にどのような意識をもたれているのかを調査し、安全でより快適な出産の提供を実現するための基礎資料を作成したいと考えております。

このアンケートには個人を特定する情報は含まれておらず、結果は本調査にのみ用いられます。なにとぞご協力いただきますようお願い申し上げます。

ご不明の点については、下の連絡先までご照会いただきますようお願い申し上げます。

敬具

平成 20 年度厚生労働科学研究

「分娩拠点病院の創設と産科 2 次医療圏の設定による産科医師の集中化モデル事業」

分担研究者

九州大学 総合周産期母子医療センター 福嶋恒太郎

共同研究者

平田伸子 (九州大学)、中嶋カツエ (久留米大学)

アンケートの記載年月日をお書きください

平成 年 月 日

妊娠・出産に関する意識調査

- 現在のあなたのご年齢は？ _____ 歳
- 現在のご住所は？ _____ 県 _____ 市(町・村)
- あなたは結婚の経験がありますか？ ○を付けて下さい。
() ある
() ない → 1年以内に結婚の予定 () ある ・ () ない
- あなたは出産の経験がありますか？ ○を付けて下さい。
() ある
() ない
- 現在お仕事をお持ちですか？ 該当するものに○を付けて下さい。
① () 常勤の勤め
② () パート・アルバイト
③ () 契約社員・派遣社員
④ () 学生
⑤ () そのほか → 具体的にご記入ください
()
- あなたはこれから出産されるとしたら、子どもは何人ほしいですか？
また、出産は何歳でしたいと思いますか？
 人 → 1人目(最初) _____ 歳
2人目 _____ 歳
3人目 _____ 歳 4人目 _____ 歳
- あなたは出産する施設について考えたことがありましたか？
() ある
() ない
- もし、出産されるとしたら、どのような施設で出産したいと思いますか。
次の中からお選び下さい。
① 診療所(個人病院)
② 病院(総合病院・大学病院)
③ 助産所
④ そのほか → ()

14. 平成 15 年の 1 年間の出産およそ 116 万のうち、妊娠出産に関連して亡くなった母体は 69 人です。諸先進国との比較を表に示します。この数字について、どのようにお考えになりますか。

妊産婦死亡率(出生 10 万対、日本は 2003 年、他は 1997-99 年の統計)

日本	アメリカ	カナダ	フランス	ドイツ
6.1	7.1	5.5	10.1	4.8

- () 思っていたよりも少ない
 () 思っていたよりも多い
 () この程度だと思う
 () そのほか→具体的にご記入ください

()

15. 平成 15 年の 1 年間の出産およそ 116 万のうち、妊娠 8 ヶ月から出生後一ヶ月の間に亡くなった赤ちゃんは 5929 人です。諸先進国との比較を表に示します。この数字について、どのようにお考えになりますか。

周産期死亡率(出生 1000 対、日本は 2003 年、他は 1997-99 の統計)

日本	アメリカ	カナダ	フランス	ドイツ
3.7	9.9	6.6	7.1	6.5

- () 思っていたよりも少ない
 () 思っていたよりも多い
 () この程度だと思う
 () そのほか→具体的にご記入ください

()

16. これからのよりよい産科医療のあり方について、ご意見がございましたらご自由にご記入下さい。

平成 19 年 10 月吉日

母体搬送症例の受療動態調査へのご協力をお願い

拝啓

ますますご盛栄のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、私どもは、厚生労働科学研究「分娩拠点病院の創設と産科2次医療圏の設定による産科医師の集中化モデル事業」(主任研究者 東北大学 岡村州博教授)の研究班に参加し、久留米大学と九州大学で集約化後の周産期医療について研究をおこなっています。

その一環として、今回、過去2年間に久留米大学病院、九州大学病院に母体搬送となった症例が妊娠中にどのような受療動態をとられていたかを明らかにすることを目的として調査を企画いたしました。先生には、貴施設からご搬送いただいた症例について、その方々の受診された施設をお教えいただきたいとお願いする次第です。

ご多忙のところ恐縮ですが、記入例をご参照いただき、調査票にご記入の上、11月16日までに同封の返信用封筒にてご返送いただきますようお願い申し上げます。

なお、調査のため患者個人名を記入しておりますが、回収後は個人情報保護のため、情報は匿名化いたします。ついては、記入不能の場合もお手数ですが白紙のままご返送いただきますようお願いいたします。ご不明の点については、下の連絡先までご照会いただきますようお願い申し上げます。

敬具

同封書類

記入例 1枚

調査票 8枚 (2005年、2006年の貴施設からの母体搬送症例)

返信用封筒 1通

厚生労働科学研究

「分娩拠点病院の創設と産科2次医療圏の設定による産科医師の集中化モデル事業」

分担研究者 九州大学病院 周産母子センター

福嶋恒太郎

研究協力者 久留米大学病院 産婦人科

大田俊一郎

連絡先 電話 092-642-5395

FAX 092-642-5414

E-mail kfuku@med.kyushu-u.ac.jp

患者様ご氏名	生年月日
紹介日	()年()月()日:妊娠()週()日

貴施設初診日	()年()月()日:妊娠()週()日
--------	-------------------------

貴施設の前に妊娠管理を行っていた施設の有無

無し	
不明	
有り	

下表にご記入ください

			貴施設の直前	その前	さらにその前	
施設の種類の (施設名をご記入ください) 福岡県外からの場合には、所在地 (都道府県名)もおわかりになれば ご記入ください	周産期センター、大学病院					
	2次(公的)病院					
	診療所(分娩取り扱いあり)	診療所(分娩取り扱いなし)				
		診療所(分娩取り扱いについて不明)				
		助産院				
	不明					
	そのほか					
変更の理由 (該当するところに○をつけてください)	医学的					
	患者希望	里帰り				
		地理的(同一地域内)				
		医師やスタッフとの相性				
		設備				
	分娩取り扱い無し					
	受け入れを拒否された					
そのほか(具体的に)						
不明						
初診時期 (該当するところに○をつけてください)	～妊娠12週					
	妊娠13週から21週					
	妊娠22週から28週					
	妊娠29週から35週					
	妊娠36週以降					
	不明					

分娩予約の現状調査へのご協力をお願い

拝啓

ますますご盛栄のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、私どもは、厚生労働科学研究「分娩拠点病院の創設と産科2次医療圏の設定による産科医師の集中化モデル事業」(主任研究者 東北大学 岡村州博教授)の研究班に参加し、久留米大学と九州大学で集約化後の周産期医療システムについて研究をおこなっています。

昨今、地方によっては、妊娠6・7週までにいわゆる分娩予約を行わないと、希望の施設で出産ができないというような報道もございます。そこで、今回は福岡県内の量的な分娩受け入れ能力を検討することを目的として本調査を企画いたしました。先生には、貴施設の分娩とりあつかいならびに予約の現状等についてお教え願いたくご協力をお願いする次第です。

ご多忙のところ恐縮ですが、調査票にご記入の上、平成20年10月31日(金曜日)までに同封の返信用封筒にてご返送いただきますようお願い申し上げます。

ご不明の点については、下の連絡先までご照会いただきますようお願い申し上げます。

敬具

同封書類

調査票 1枚(両面)

返信用封筒 1通

平成20年9月吉日

厚生労働科学研究

「分娩拠点病院の創設と産科2次医療圏の設定による産科医師の集中化モデル事業」

分担研究者 九州大学病院 総合周産期母子医療センター

福嶋恒太郎

連絡先 電話 092-642-5395

FAX 092-642-5414

E-mail kfuku@med.kyushu-u.ac.jp

1. 貴施設についてお教えてください。

1) 所在地 () 市・郡 福岡市・北九州市の場合 () 区

2) 常勤医師数 () 名

3) 分娩の取り扱いについてお教えてください。

() 現在も過去も分娩取り扱いなし→以下ご回答不要です。そのままご返送ください

() 以前は取り扱っていた：() 年前まで

お取り扱いになっていた時のことをご回答ください。

() 分娩とりあつかいあり

4) およその一ヶ月あたりの分娩数 (当てはまるものに○をおつけください)

() 20件以下 () 20-30件 () 30-40件

() 40-50件 () 50-60件 () 60件以上

5) 「分娩予約 (貴施設で分娩をすると決めていただくこと)」をおこなっておられますか

() 行っている

() 行っていない

6) 分娩予約に際して、予約金を設定しておられますか

() 行っている → おおよそ () 万円

() 行っていない

7) 里帰り分娩は受け付けておられますか

() いる → おおよそ () 週までに受診

() いない

2. 分娩予約を行っているとお答えの施設におたずねします。

1) 予約に制限 (一ヶ月あたりの上限を設けるなど) を設けておられますか

() いる → 以下続けてご回答ください。

() いない → 設問3. にお進みください。

2) 制限の導入はいつごろからでしょうか

() 10年以上前から () 5年以上前から

() 3-5年前から () ここ3年以内

裏面に続く

3) 制限をおこなっている理由をお教えてください(複数選択可)。

- 病床数 医師の数 助産師(看護スタッフ)数
 医療安全 費用対効果
 そのほか→具体的にお教えてください

{ }

4) 制限の基準とされているものをお教えてください(複数選択可)。

- 一ヶ月あたりの分娩数: おおむね()件程度
分娩数で制限されている場合、いつごろいっぱいになりますか?
およそ妊娠()週頃
 妊娠時期: おおむね()週までに
 症例のリスク
 経済的(予約金等)
 そのほか→具体的にお教えてください

{ }

5) 申し込みが予約制限数を上回りお断りになる事例はありますか?

- ある→月()件程度
 ない

3, 分娩予約に関して、今後新たに制限を導入されるあるいは制限を厳しくするお考えはありますか

- ある
 ない

その理由をお教えてください

{ }

4, そのほか分娩予約やその制限についてご意見があればご自由にお書きください。

{ }

ご協力ありがとうございました。

資料4: 地域医療機関における産婦人科医師のニーズ調査

病院長・人事ご担当者 様

平成 20 年 9 月吉日

「地域医療機関における産婦人科医師のニーズに関するアンケート」ご協力をお願い

拝啓 初秋の候、貴院ますますご盛栄のこととお慶び申し上げます。

さて、私どもは、厚生労働科学研究 「分娩拠点病院の創設と産科 2 次医療圏の設定による産科医師の集中化モデル事業」(主任研究者 東北大学 岡村州博教授)の研究班に参加し、久留米大学と九州大学で集約化後の周産期医療システムについて研究をおこなっています。

九州大学では、2005 年 9 月に「地域医療機関における産婦人科医師のニーズに関するアンケート」を行わせていただきました。その後 3 年間に地域医療機関、とりわけ病院に勤務する産婦人科医師の不足がどのように変化したか、また国や自治体等の医師偏在是正に対する諸種の施策がどのような効果を与えているのかを明らかにする目的で今回、再調査をお送りさせていただきました。

つきましては、本調査の主旨をお汲み取りいただきまして、同封のアンケートにご回答いただき、平成 20 年 10 月 31 日(金曜日)までにご返送いただきますようお願い申し上げます。またご多忙のところ大変恐縮ですが本アンケートは代表者ご自身もしくは医師採用ご担当の方にご回答いただきますようお願い申し上げます。

今回の調査結果につきましては、統計データのみを本研究班にて利用させていただき、個々の医療機関様の情報が外部に流出することは決してないように対応させていただきます。なお、ご不明の点は、下記の連絡先までお問い合わせください。

末尾ながら、皆様のご健勝と貴院のご発展をお祈り申し上げます。

敬具

同封書類

調査票 3 枚(両面)、返信用封筒 1 通

厚生労働科学研究

「分娩拠点病院の創設と産科 2 次医療圏の設定による産科医師の集中化モデル事業」

分担研究者 九州大学病院 総合周産期母子医療センター

福嶋恒太郎

連絡先 電話 092-642-5395、FAX 092-642-5414

E-mail kfuku@med.kyushu-u.ac.jp

1-9. 卒後2年目以降のいわゆる後期研修について貴院の方針をお聞かせください。

(当てはまる番号に○印をつけてください)

- 1 単独で行っている
 2 いくつかの病院とグループで行っている
 3 大学病院（従来の医局）とグループでおこなっている
 4 その他（ ）

2-1. 貴院の現在の産婦人科診療の概要をお聞かせください。(該当枠に○をご記入ください)

回答例) 産婦人科全般について「1次医療」を行っている

	1次医療	2次医療	3次医療
産婦人科全般	○		

回答欄

	1次医療	2次医療	3次医療
産婦人科全般			
産科（周産期）			
婦人科中心			

その他()

2-2. 3年前（平成17年前後）と比べて産婦人科診療について変化がありましたか？

(該当枠に○をご記入ください)

	縮小した	かわらない	増大した
産婦人科全般			
産科（周産期）			
婦人科			

具体的な変化があればお教えてください。

{

3-1. 現在の産婦人科医師数 についてお教えてください（人数をお書きください）。

経験年数		1	2	3	4	5
		30年～	15年～	10年～	5年～	5年未満
1 常勤	1 男性	名	名	名	名	名
	2 女性	名	名	名	名	名
2 非常勤	1 男性	名	名	名	名	名
	2 女性	名	名	名	名	名

5. 今後数年の貴院の産婦人科診療に対する方針をお教えてください。

(当てはまる番号に○印をつけてください)

1 現状維持

2 拡大(分野)

3 診療科の縮小・閉鎖

4 特に検討していない

5 その他 ()

6. 上記の方針を実施するのに確保したい産婦人科医師の内訳と人数をお教えてください。

(現有の産婦人科医師を含めてお書きください)

	1 管理指導者	2 中堅医師	3 若手医師
1 常勤	名	名	名
2 非常勤	名	名	名

7. 確保したい産婦人科医師(現有の医師も含めて)に求めるものをお教えてください。

(◎重要度高い ○高い △参考まで ×検討しない)

回答例

	1 管理指導者	2 中堅医師	3 若手医師
管理経験・キャリア	◎	△	×

8-1. 回答欄

	1 管理指導者	2 中堅医師	3 若手医師
管理経験・キャリア			
学会等における資格			
論文等の業績			
教育力			
診療力			
営業・集客力			
学位			
()			

追加項目がございましたら、()内へ記入をお願いします。

8-2. 3年前(平成17年前後)と比べて確保したい産婦人科医師(現有の医師も含めて)に求めるものについて変化がありましたか? 枠内に矢印でご記入ください。

(↑重要度がました、→変わらない、↓重要でなくなった)

	1 管理指導者	2 中堅医師	3 若手医師
管理経験・キャリア			
学会等における資格			
論文等の業績			
教育力			
診療力			
営業・集客力			
学位			
()			

8-3. 医師の確保の現状を教えてください。

(◎十分確保可能 ○概ね確保が可能 △不足)

回答例

	1 管理指導者	2 中堅医師	3 若手医師
確保の状況	△	○	△

回答欄

	1 管理指導者	2 中堅医師	3 若手医師
確保の状況			

8-4. 3年前(平成17年前後)と比べて確保の状況に変化がありましたか? 当てはまる番号に丸印をおつけください。

1, 確保しやすくなった 2, かわらない 3, 確保が困難になった

9. 特定の診療科の医師について雇用契約や給与体系上優遇することを考えておられますか。

(当てはまる番号に○印をつけてください)

1 考えていない

2 すでに行っている(行なっていること))

具体例: 給与のベースアップ

3 考えているが、制約があり困難である (理由:)

4 その他 ()

10. 産婦人科医師が確保できない場合の対策を考えておられますか（複数回答可）。

（当てはまる番号に○印をつけてください）

1 考えていない

2 考えている

2-1 診療体制の縮小について検討している

2-2 医師の院内での育成を図っている

2-3 内科や外科医師による産婦人科診療の準備を行っている

2-4 スポット医師・非常勤医師の増員対策を準備している

2-5 医師のスキル向上での対応を検討している

2-6 医師人材確保方法の変更の検討をおこなっている

2-7 病病連携による地域医療圏内でのポジション変更について検討している

2-8 その他（ ）

11. 今後の貴院における産婦人科医師確保のリソースとして最も重要なものをお選びください。（当てはまる番号に○印をつけてください）

1 公募

2 医局からの斡旋

3 院内育成

4 民間人材紹介会社

5 その他（ ）

12. 大学医局やそれに代わる機関からの医師斡旋が有料化された場合にどのような対応をお考えですか。（当てはまる番号に○印をつけてください）

1 医師斡旋料の支払いは考えていない

2 無条件に支払う

3 条件により支払う（複数回答可）

3-1 利用料や成功報酬の支払いなら可能である

3-2 医師の年収の（ ）%（約 ）万円程度

3-3 運営経費等負担し、積極的にかかわる

3-4 負担額は年間（ ）万円程度が妥当である

3-5 その他（ ）

13. 現在の厚生労働省をはじめとする国の医師不足（特に産婦人科医）対策についての感想をお教えてください。

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

市民フォーラム「安心してお産ができるまちづくり」

1 日時:平成19年1月14日(日)13:00~16:00(開場12:00)

2 会場:西日本総合展示場新館(A1M)3階会議室
北九州市小倉北区浅野三丁目8番1号

3 参加者101名

4 内容:

13:00 開 会 主催者挨拶

13:05 講 演 (安心してお産ができるまちづくり)

○パネリスト コーディネーター 九州大学 福嶋 恒太郎

RKB 毎日放送 深見 敦子

保健福祉局医務監 熊澤 淨一

市立医療センター 高島 健

九州大学医学部保健学科 平田 伸子

早稲田大学法務研究科 和田 仁孝

15:00 討論

※質疑応答

16:00 閉会

5 主催:

平成18年度厚生労働科学研究費補助金 子ども家庭総合研究

「分娩拠点病院の創設と産科2次医療圏の設定による産科医師の集中化モデル事業(主任研究者 東北大学大学院医学系研究科岡村州博教授)」

分担研究者 九州大学病院 周産母子センター 福嶋恒太郎

6 共催:北九州市、北九州市医師会、北九州産婦人科医会

市民参加フォーラム

「安心してお産ができるまちづくり」

いま、全国で産科医が不足しています
安心して安全にお産ができるまちづくりをめざして
これからの産科医療についてみんなで考えてみませんか

■コーディネーター

九州大学病院 周産母子センター 福嶋恒太郎

■講師 (50音順)

北九州市保健福祉局医務監 熊澤 淨一

北九州市立医療センター医師 高島 健

RKB毎日放送記者 深見 敦子

早稲田大学法科大学院教授 和田 仁孝

※このほか、助産師も講演予定です



申し込みは、往復はがき(2人まで可)に、全員の住所・氏名・年齢・電話番号・
託児希望者は子どもの名前と年齢を書いて、1月5日までに、
北九州市 保健福祉局医療課「フォーラム係」へ
(〒803・8501 小倉北区城内1-1 TEL 582・2678)
定員130名(抽選)。参加無料。託児(1歳～就学前。有料)

日時 平成19年1月14日 日曜日 午後1時

場所 西日本総合展示場新館 (AIM3階)

小倉北区浅野3-8-1

- JR小倉駅・モノレール小倉駅よりペDESTリアンデッキ(動く歩道)で徒歩5分
- 北九州市都市高速・小倉駅北ランプから車で3分



主催：厚生労働科学研究

「分娩拠点病院の創設と産科2次医療圏の設定による産科医師の集中化モデル事業
(主任研究者 東北大学大学院医学系研究科 岡村州博教授)」

分担研究者 九州大学病院 周産母子センター 福嶋恒太郎

共催：北九州市、北九州市医師会、北九州産婦人科医会